令和５年度「高知の授業の未来を創る」推進プロジェクト　～いつでも　どこでも　誰でもが学べる場へ～

特別の教科　道徳　授業づくり講座（授業研究会）in　北川村立北川小学校

内容項目【相互理解・寛容】

授業をアップデート！
生きて働く学びを創る！

令和６年１月発行
東教育事務所

東部管内の講座情報

今年度の道徳科授業づくり講座では、「道徳科　チームミーティング」の手法を取り入れ、授業力アップを図っています！　ぜひ、校内研修の参考にしてください。

道徳科　チームミーティングとは？

※道徳科授業づくり講座講師である森教授が考案されたファシリテーターが参加者の協働的な学び合いを促し、短時間で行っていく教材・授業研究会のことです

道徳科における「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて　～協働的な校内研修で組織的な授業改善を！～

道徳科　チームミーティング（授業研究）の流れ

①　チームミーティングの流れと教材・内容項目等を確認する（１分）

※学習指導案や学習指導要領解説で共通確認します

②　授業者が授業で気になった点を報告する（２分）

授業者：授業後半の「許すこと」の難しさやよさについて、深めていきたかったのですが、自分事になりきれなかったと思います。

③　「事後研究シート」の項目をもとに協議する（30分）

ファシリテーター：【協議①】授業者の課題を踏まえて、事後研究シートの視点で児童の姿から〇成果や※改善策を話し合いましょう。

【協議②】「許せるかどうか葛藤を考える場面で、自分事として深めるためにどのような発問（活動）があるかに焦点を絞って話し合いましょう。

※このように途中で協議の視点を再焦点化することも有効です

④　授業者が次の授業で改善したいことなどを報告する（２分）

大変参考になりました。「我慢」は取り上げるか自分も迷ったのですが、進めてしまいました。どの発言を拾い深めるとよいか、タイムマネジメントも含めて考え、今後に生かしていきます。

⑤　協議結果を記録・保管する

※参加者各自の授業改善に生かしていきましょう

共通確認のポイント

① 内容項目と指導の要点
（本時で気付かせたい・考えさせたいこと）
② 引き出したい考え
（子どもの具体的なゴールの姿）
③ 評価の視点と指導の工夫

【主題名】　広い心
【教材名】「折れたタワー」（相互理解・寛容）
【本時のねらい】（本時では下線が指導の要点）
「しかたないさ」にこめられたひろしの思いを考えることを通して、相手の過ちなどに対しても自分にも同様のことがあることとして謙虚な心で受け止め、相手の立場に立った言動がよりよい人間関係につながることに気付き、広い心をもって相手を尊重しようとする心情を育てる。

事後研究シート

事後研究シートの様式は、東部教育事務所ＨＰにも掲載しています

指導と評価は対応するようにしましょう

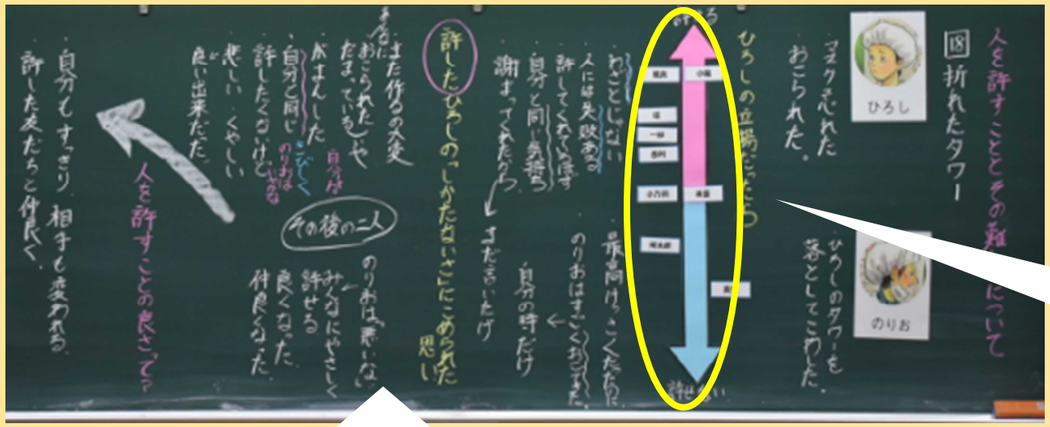
	評価の視点	指導の工夫
自分自身との関わり	相手の過ちを許すことについて、自らの行動や考えを振り返り、生き方に生かそうとしている	・アンケートの活用（導入と振り返り） ・「自分なら許せるか」をネームカードで可視化する
多面的・多角的	過ちを許す難しさやよさなど、様々な視点から考え、見方を広げている	・「しかたないさ」の主人公の心の中の葛藤を心情メーターで示し、話し合う（ペア・全体）
主題に迫る	引き出したい考え　（子どもの具体的なゴールの姿） ・自分も失敗することがある。わざとでないのであれば許す気持ちをもちたい ・失敗や過ちをしてしまった相手のつらい気持ちや理由を考えて、責めたりせずに広い心をもって接することが大切だと思った。 ・人を許すということは、自分が我慢したり、大目に見てあげたりすることだと思っていたけれど、お互いに許し合うことでよい友達関係につながっていくよさがあることに気付いた。	（問い返し） ・「自分も責められたのだから、同じように責めてもいいのでは？」 ・「許すことのよさとは？」

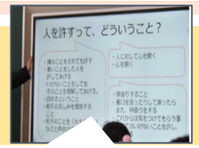
【協議①】揺さぶりの問い返し

（〇成果）許す難しさについて考えられた。
（※改善策）「本当に許せるか」の問い返しに「う～ん」と悩む姿や「我慢して許した」という発言を取り上げ、深めていくとよいのでは？

【協議②】具体的な発問や活動案
〇葛藤の赤（許す）と青（もやもや）中身を板書で書き分け、赤が青を上回るにはどんな考えが必要か、経験をもとに話し合う
〇「許すとは、我慢することか？」と問い返す

本日は、授業者の課題を踏まえてこのような具体的な代案がでました。「許すよさ」に気付かせたり、自分自身の経験を振り返ったりして、価値を深められそうですね。授業者はいかがですか？





アンケートの活用（〇成果）
学習前後での考えの深まりを児童自身が自覚できていた

ネームカード（〇成果）
互いに質問や意見交流をし合いながら、多面的・多角的な視点から考えられていた

心情メーター（１人１台端末の活用）（〇成果）
「しかたないさ」の葛藤を赤（許す）と青（もやもや）で可視化し、理由を話し合うことで、考えの違いに気付くことができた

議論できるようにするためのポイント

講師　高知大学教職大学院　森 有希 教授 より

①議論できるネタ（問）が必要
　□多様な考え、対立する意見が生まれる問いを立てる。
②議論できるだけの時間が必要
　□児童生徒が自分たちで話し合える時間を設ける（ペア・グループ・全体）
③議論できる関係・表現力が必要（学級経営、他教科でも）
　□他者の意見に対する感想（同じ、違い）や質問を述べさせるようにしている
　□他者の意見から新たに気付いたことを尋ねている
④議論しやすい場（環境）の工夫が必要
　□コの字型やグループでの座席配置

参加者より

〇深めるきっかけとなりえる児童の言葉を拾うためには、価値理解が欠かせないと改めて感じた。
〇効果的な問い返しを行うためには、ねらいを明確化し、児童の反応を予想しておくことが大切だと分かった。
〇協議の視点を絞り、みんなの意見を出し合いながら解決策を見つけていく道徳科チームミーティングのよさを感じることができた。